

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第13回

ジギタリス



ジギタリスはイギリスで利尿作用の民間薬として用いられていましたが、1776年イギリスのウィリアム・ウィザリングが発表して以来強心剤として用いられるようになりました。

ジギタリスはゴマノハグサ科に属する多年草で、草丈は1メートルに達し、長楕円形で毛に覆われた葉は互生です。初夏茎の先端に筒状の紫赤色等の花を多数開きます。

葉を採取して60℃で乾燥した後、葉を抽出し分離精製を繰り返して、ジギトキシン等の強心配糖体を単離し薬用に供します。

ジギトキシンは強心作用の発現がジゴキシンに比べ遅く、代謝が遅く蓄積が起こり副作用が出やすいため、現在はジゴキシンの使用が多くなっています。

キョウチクトウやスズラン、オモト、又食用のモロヘイヤの種子や根にも強心配糖体を含むので中毒には要注意です。

強心作用を本画は1852年ウインクラーにより描かれたもので手彩色が施されています。

